

「キリストの中に根ざす」 コロサイ 2：7

I 「キリストの中に根ざし」。根ざすの原語：根付かせる、根を下ろさせる、しっかりした土台の上に置く、固定させる、深く根ざす、堅く土台を置くの意。キリストの中に深く根付く、根を下ろす、しっかりした土台であるキリストの上に自らを置く、世のものではなく、自らをキリストに固定させる。

II キリストの中に深く根ざさない時：①「岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。しかし、自分のうちに根がないため（キリストの中に根ざしていないため）、しばらくの間そうするだけで、みことばのための迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます」（マタイ 13：20、21）。一時的に熱心でも、主から離れてしまう。※私が、これまで主から離れていないのは、ただ主の憐み。②キリストではないものに根ざしてしまう＝過度の、必要以上の活動に見え多く事で、自分自身の状態や主ご自身を見つめる事をしない。ごまかしてしまう。「いばらの中に蒔かれるとは、御言葉を聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです」（13：22）。「金銭を愛する（執着する、神より大切にし、心がお金に支配される、金銭の中に根ざす）ことが、あらゆる悪の根だからです。金を追い求めたために、信仰（キリストに根ざす信仰）から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました」（I テモテ 6：10）。私達は皆弱い。金銭の欲望、不品行の欲望、名誉欲に根ざし、のめり込むことから守られ、真の満たしを与えて下さるキリストに根ざせるように共に祈り合い支え合いたい。「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け…神を知らない異邦人のように情欲におぼれず」（I テサロニケ 4：3-5）。不品行、有害な映像、有害なサイト、アクセス、誘惑等にはまり、根づく、心、思い、考え、行動も汚されて行く。依存症にもなる。心も精神も体も人生も駄目にする。一人では弱い。それらか守られるように共に祈り合いたい。

III キリストに根ざすとは＝

1. 「あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています。しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです」（ルカ 10：41、42）→「主の足もとにすわって、みことばに聞きいつていた」（10：39）。主のもとに静まり、みことばに聞き入り、主に深く根ざす時、主の喜ばれる奉仕が示され主の力による実践へ導かれる。キリストに深く根ざさない自分勝手な活動、動き回る事は、自分の霊性、霊的状态、主との関係をやせ衰えさせ、疲れさせ、霊的な根無し草のようになり世に流されてしまう。
2. 永遠に変わらないキリストの愛に根ざす。私達を心から愛して下さる主の愛を日々心から信じ受け入れる。その愛を知り続ける。「主に愛されている兄弟たち」（I テサロニケ 2：13）。キリストの「愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように」（エペソ 3：17-19）。
3. キリストの中に深く根ざす事は、一回でできる事ではない。神が造られた植物と同じである。苗が

しっかり根づくには、動き回るのではなく、苗が同じ場所にとどまり、日々天と地の恵みを受け続ける時、次第に根が出て根付いて行く。私達も、自分勝手に動き回るのではなく、主にとどまり続ける。

①一日の活動が始まる前に、毎朝、主と交わる（御言葉と祈り）。その積み重ねで主に根付いて行く。「イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所に出て行き、そこで祈っておられた」（マルコ 1：35）。②一週間の活動が始まる前に、主の日、聖日を聖別し（神の為の日として取り分けて保ち）、主のからだなる教会の民と共に神を礼拝する。その積み重ねで主に根付いて行く。神が与えられた聖なるリズムは、大きな恵みである。「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ」（出 20：8）。「内なる炎が燃えて来るまで、その心備えに留まりなさい。そのような準備の後に迎える主の日は、いかに麗しく、いかに大きな益をもたらすか…土曜日の夜に神のもとに預けた心は、日曜日の朝も主と共にある事をあなたは知るであろう」スウィック。③「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです」（マタイ 18：20）と約束された祈り合う交わりに連なり、主に根ざして行く。

IV 励まし。キリストに根ざす時、すぐにではなくても、時が来ると実がなる。

1. 「その人は主の教えを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ（思い巡らす）。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は何をしても栄える」（詩篇 1：2, 3）。主の中に根ざす人は、「神の近くにいることが、しあわせなのです」（詩篇 73：28）と本音で告白し、主の教えを喜びとする。主の御言葉を慕い求める。その人は、毎朝、主と交わり御言葉を味わい、日常生活の中でも心の中で主の教えを思い巡らし仕事をする。仕事の戦いの中で、主の御言葉は、私達をしっかりと支える。そのようにして、主に根ざし続ける時、主から霊的養分をいただき続け、神の時が来て、神の栄光を現わす実を結ぶ。
2. 「ユダの家ののがれて残った者は下に根を張り、上に実を結ぶ」イザヤ 37：31。下に根を張ることなく、あせって上に伸びようとするなら、いつか倒れてしまう。間違った教えの風や突然の人生の嵐の嵐で倒れてしまう。下に根を張る事は、人の目には目立たない。地味である。地道な事である。しかし、それが大切である。多くの愛の実践をされた主が、目立たない所でなされた事、主の御働きを支えたもの＝「群衆を帰したあとで、祈るために、ひとりで山に登られた」マタイ 14：23。一日の仕事、務め、学びを始める前に、神の前に静まり神と交わる幸いな、大切な時は、人の目につかない。しかし、それは、主に根ざす大切な時であり、その主から霊的な養分をいただき、日々を主と共に生きる。苦しみや試練の中でも主は支えて下さる。